

# 加茂学園は今

## 「加茂園のりんく」と「園舎」

コロナ禍ではありますが、10月23日(金)に学園祭を実施しました。今年度は、地域の宝・吹奏楽部、クラスが体育館で発表している様子を教室でリモート参観するという形で行いました。地域の宝では、加茂地区まつりや盆踊りや伝統に関わる調理学習も発表されました。



「園舎」部においては、「一人の心を動かす合唱」が響き渡りました。講師からは「声質や調性に対する子どもたちの思いが加茂学園だからこその成長を感じられる美しいハーモニーの合唱」と、講師をいただきました。閉会セレモニーでは、学園祭一コマの「響く」にふさわしい生徒会本部役員による引き継ぎも行われました。

## 第8回 加茂園校内マラソン大会

12月8日(火)に「第8回加茂園校内マラソン大会」が行われました。子どもたちは体育館で開会式と1ヶ月以上の練習を重ねてきました。加茂学園では「マラソン練習を通じ、学校教育目標の一部である「心身ともにたくましい生徒の育成」に取り組んでいます。当日は走者全員が走り力を発揮することができました。新しい試みとして、9年生の駅伝が競演し、飛び入り参加の職子一と競い合いました。



## オーストラリアの学校とZoom交流!

加茂園では年度より、グローバルの推進事業に取り組んでいます。その一つとしてオーストラリアの生徒とZoom(テレビ電話システム)を利用して1月11日(金)に6年生が交流を行いました。6年生は、日本の人オーストラリアについてパワーポイントで資料を渡していました。



## 作家とサポーターの今

### 「加茂園オリジナル マネイクイーン・イングリッシュ」

12月16(土)17日(日)に「加茂園オリジナル アニメ・イングリッシュ」を全校生徒が行いました。2(3)時間英語だけで外国人3名の先生と英語の先生も入り活動を行いました。前期ブロック(1~4年生)は英語を聞いてクリスマスマリーの飾り付け、中期ブロック(5~7年生)は英語を聞いて体を動かすゲーム、後期ブロック(8、9年生)は英語を聞く、話す、読むを活用し、宝探しを行いました。加茂から世界(グローバル)につながる生徒の未来づくりの為に、加茂学園はこれからも外国語(英語)教育に力を入れていきます。



## 作家とサポーターの今

いちほらアートミックス2020の準備はどの程度進んでいるのか、サポーターとしての葉花レイヤーズはどの程度関わっているのか、昨年の暮れに2カ所取材しました。月出工舎は岩間さんを中心に多くの作家が関わっている場所です。取材当日は岩間さんの他に作家の来田広太さん、岡田美さん、そして来たばかりの吉本和樹さんに会うことができました。



来田さんは月出本のブルの上方にある民家の改装に取り組んでいました。絵画作品を展示する場所、いうことで、空き家状態でいた民家は床板や壁面などまだまだ残っていましたが、いらないところをたたくという状態でした。作品そのものの制作よりも、その展示場となる場所の修復に相当量のエネルギーを注ぎ込まなければいけないにもか



## いちほらアートミックス+

かわらず、会場と作品展示との全体のイメージがあるからなのか、死に取組んでいるようでした。来田さんの友人でもある吉本さんはその来田さんの高さを映像として記録して作品にしたいと語っていました。この家は工舎側から見ると、見おのように見えるのですが、家側から見ると荒れかたは、竹や木を相模探したようです。この日はここに3人の男性が花レイヤーズがサポーターとして外回りの作業を取り組んでいました。知っている顔もあり、家側をこまめにみるのが大変だったと話してくれました。撮影のためにマスを外してもらいました。体育館では岡田さんと一緒に、組んだ足場の上で天井付近の作業を行いました。体育館の天井ですから相違の高さがあります。岡田さんは「これまで一回目にプールを会場として、二回目は教室を会場としてきましたが、今回は体育館が会場になるということでした。ここでも作品制作のものよりも、会場となる場所の設置に取り組みしています。岡田さんは「地域に根ざした、一過性でないものにしてほしい」と



思いを語ってくれました。ここでの葉花レイヤーズは全真女性でした。サポーターの方とは一回目の時から関わってらっしゃる人もいらっしゃるということでした。ここでも撮影のためにマスクを外してしまいました。月崎の民家は市原商大議所加茂支部のところが月崎庄に向かう道のすぐ右手に入った奥にあります。民家といってもその庭には石やいろいろなものが置かれ、日本庭園とほぼよつと異なる様相を呈しています。トルコ出身の作家アイシャ・エルクメンさんは「ここに心惹かれたい場所として選んだことでした。コロナ禍の中で作家は来日できないため、作家の構想に基づいてサポーターが少しずつ仕上げていくことでした。この日は今回のアートディレクター豊崎さんが先頭に立ち、庭にコンクリート流ししている様子でした。時間が経つと乾いてしまっているので作業は続き、作



## いちほらアートミックス+

業しながら話をしてくれました。今回は世界中の作家たくさん参加しているのが、広い視野を持つて見られている。また作品をゆつくり見てもいい、と述べていました。ここにはみなさんが作業で手を止めることができなかったため、作業中の写真しか撮れませんでした。芸術祭が始まり展示された作品を見るだけではわからない。その過程の一部を垣間見ることができたことは有意義でした。サポーターの役割は重要で、必要な場があること、また作品そのものにも大きな関わっている場があること、そして作家はコロナ禍にあっても意欲的に取り組んでいること、そういうことを感じることができました。刻々と変わる状況で芸術祭は本日に開催されるが、そのころは誰に誰にわかりませんが、準備の段階で見た作家さんやサポーターの真実な姿には、の気持ちを動かすだけのエネルギーを感じました。どうか、ここが好転して開催されることを願います。



加茂里山通信の愛読者がたくさんいます。新年は宝船プレゼント実施してまいりましたが、以下の理由により今回は中止させていただきます。コロナ禍において商工会議所の飲食店と観光関連の事業所を中心とするところが多岐にわたります。自己努力だけではどうしようもない状況の中、みなさん必死で頑張っているところ。私たち編集部も生間頭を合わせて意見をすることができません。毎年来しみにされてきた読者の皆様には大変申し訳なく思いますが、どうかご理解賜りますようお願い申し上げます。なお、当編集部への「意見」「感想等」につきましてはいつでも歓迎ですので、お寄せいただければ幸いです。

次回(4月25日)発行予定です。情報提供、取材依頼はお近くの通信へ。メールでも受け付けます。記事に関する意見、お問合せは下記へ。市原商工会議所 0436(22)4305 担当 露崎 Eメール Tsapoo@coi.or.jp

# いちほらアートミックス+

「はじめに」 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、2021年5月30日(5月16日)を期延期した「房総里山芸術祭 いちほらアートミックス2020上」。「上」の名を冠してリスタートし、2020年12月23日にはオンラインでの企画発表が開催されたほか、開催まで約2か月を切った現在は会場での制作活動が活発化、小湊港のラビング列車も出てきた。開催への機運の高まりを見せています。



# 加茂里山通信

令和3年 新年号  
発行 市原商工会議所 加茂里山通信編集部 編集長 征矢貫造

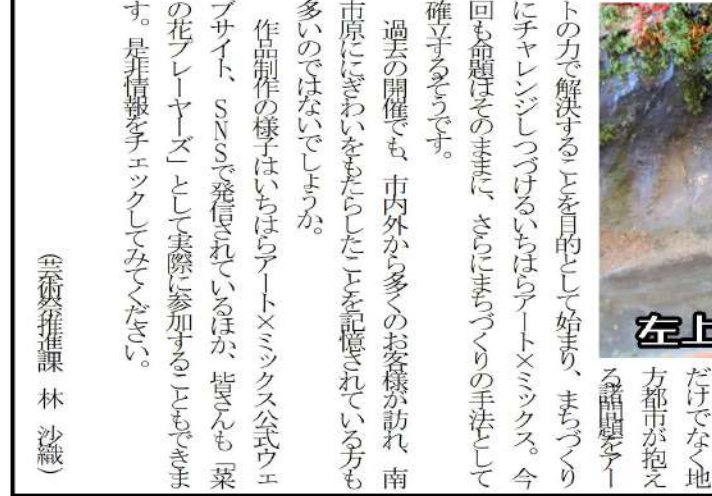
「はじめに」 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、2021年5月30日(5月16日)を期延期した「房総里山芸術祭 いちほらアートミックス2020上」。「上」の名を冠してリスタートし、2020年12月23日にはオンラインでの企画発表が開催されたほか、開催まで約2か月を切った現在は会場での制作活動が活発化、小湊港のラビング列車も出てきた。開催への機運の高まりを見せています。



「はじめに」 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、2021年5月30日(5月16日)を期延期した「房総里山芸術祭 いちほらアートミックス2020上」。「上」の名を冠してリスタートし、2020年12月23日にはオンラインでの企画発表が開催されたほか、開催まで約2か月を切った現在は会場での制作活動が活発化、小湊港のラビング列車も出てきた。開催への機運の高まりを見せています。



「はじめに」 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、2021年5月30日(5月16日)を期延期した「房総里山芸術祭 いちほらアートミックス2020上」。「上」の名を冠してリスタートし、2020年12月23日にはオンラインでの企画発表が開催されたほか、開催まで約2か月を切った現在は会場での制作活動が活発化、小湊港のラビング列車も出てきた。開催への機運の高まりを見せています。



「はじめに」 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、2021年5月30日(5月16日)を期延期した「房総里山芸術祭 いちほらアートミックス2020上」。「上」の名を冠してリスタートし、2020年12月23日にはオンラインでの企画発表が開催されたほか、開催まで約2か月を切った現在は会場での制作活動が活発化、小湊港のラビング列車も出てきた。開催への機運の高まりを見せています。



